



—東地中海地域ニュース—

イラン：国連総会でのイラン・日本外相会談他

(9月22・24日付「イラン・デイリー」紙他)

9月22日、第64回国連総会に出席中のモッタキー外相は、日本、フィンランド、ウルグアイ外相と会談した。

1. イラン・日本外相会談(要旨)

(1) モッタキー外相の発言

イランは核兵器の製造・取得の意思はない。核兵器の時代は終わった。

イランは核軍縮の分野において、唯一の被爆国である日本と協力する用意がある。

イランは対話を尊重するが、(平和利用を目的とする原子力開発の)権利に関して交渉をする意思はない。オバマ米政権の「変化」政策が、言葉のみでなく、行動にて示されることを希望する。

(2) 岡田外相の発言

(イランの核開発活動に疑惑が存在するのは残念であるとしつつ)オバマ政権との対話を求める。そして、イランが交渉の場に戻ることを期待する。

2. イラン・フィンランド外相会談(要旨)

(1) モッタキー外相の発言

イラン側新提案パッケージでは、共通の問題・関心事項が包括的に取り上げられている。

(5常任理事国プラス独との)信頼醸成措置は、双方向のプロセスでなければならない。

(イランの化学兵器廃絶に向けた計画に言及しつつ)イランは、核軍縮において、より積極的な役割を果たすことができる。西側諸国が、他国の誤解を招くような報道に関与していることは残念である。国連に対し、独立した政策を採用し、イランとの関係を強化することを求める。

(2) アレクサンデル・フィンランド外相の発言

イランとP5+1との協議が、前向きな結果となることを希望する。又、それが、二国間関係の拡大につながることを期待する。

3. イラン・ウルグアイ外相会談(要旨)

(1) モッタキー外相の発言

イランは、南米諸国と誠実な関係を有しており、経済、科学、技術及び農業分野における協力を拡大する用意がある。

(2) フェルナンデス・ウルグアイ外相の発言

ウルグアイは、常にイランと密接な関係を有してきており、すべての分野で更なる関係強化を行う用意がある。平和的手段を通じての国際的及び地域問題の解決を求める。